

学校最前線 【TOPIC】

東百舌鳥高校が「ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価」で研究成果を発表

大阪府立東百舌鳥高等学校

(堺市、牧野浩二校長) は一月

十八日、同校で研究成果発表

会を行った。パナソニック教

育財団の特別研究指定校とし

て「ICTを活用したアクティ

ブラーニングの実践と評価」一

人一台タブレット端末による

「Portfolio活用」というテーマ

で二年間研究してきた成果を公

表。他府県からの九人を含め九

二人の参加があった。当日は、

五時間目(現代社会、化学基礎、

家庭総合、マルチメディアなど

七クラス)と六時間目(数学

A、コミュニケーション英語、

情報の科学など九クラス)の公

開研究授業で披露し、成果の一

端を発表した。その後、日本福

祉大学の影戸誠教授の講演と研

究協議を繰り広げた。

同校は、実践の柱として、生徒のスマホを活用して、①「授業の最初に目当てをしめす(ブ

ロジエクタ活用)②「生徒の

発言場面をつくる(思考を伴う

議論・発表・記述などの言語活

動)③「授業の最後にQRコ

ードを読み取らせ、目当ての違

成度、感想を書き込ませる(生

徒のモバイルデバイス活用)」、

の三点を基本に授業に取り組ん

できた。

実践研究の一年目である平成

二十七年度は、パナソニック教

育財団の研究助成金でiPad

miniを五十二台購入し、従

来のiPad2の五十四台と合

わせて二クラス分のタブレット

型PC端末を利・活用できるよ

うになり、すべての教室で生徒

が使える環境が整えられた。ま

た、グループワークなどができ

るように移動式の机や椅子を配

置した「Aルーム」や「マル

チメディアルーム」も同時に整

備された。

六月には日本教育工学協会

(JAET)の学校情報化診断

システムを活用して学校内の情

報化の状況を自己診断して認定

基準に満たない項目を調べ、そ

の結果八月にすべての教室に電

子黒板機能付きの短焦点プロジ

エクターを設置した。そして、

教員対象の講習会を開いてプロ



写真は、当日の研究発表会の様子を組み合わせたもの

ジエクターの活用を推進し九二%の教員が利用するまでになった。この研究実践が認められ、十月には大阪府立の学校として初めて日本教育工学協会の「学校情報化優良校」として認定された。

アクティブラーニングについては、校内の「トータルプラン委員会」で議論して東百舌鳥高校独自のアクティブラーニングを定義した。また、すべての教科で観測別評価規準を作成し評価するようにしている。

平成二十八年度は、ICT活用支援を行うICT教育推進室を校内分掌組織として新たに設置。また、アクティブラーニングの実践と評価のために「カリキュラム・マネジメント」を導入し、毎時間の学習内容や「学んだこと」、「考えたこと」を記入したポートフォリオを生徒に記入するようにさせている。今回の研究成果発表会では、生徒がモバイル端末を使って授業の達成度と感想を書き込み、ePortfolioを作成する授業を行った。

(大阪府立東百舌鳥高等学校教諭

稲川孝司)